



今年度の学校間交流から ～高校生と小学部児童の交流～

本校では、学部毎に地域の学校と継続的な交流を行っています。今年度は初めて、高等部と交流している定時制課程の生徒たちの中で、家庭科を履修している3年生の生徒と小学部の児童が交流しました。

3年生の生徒たちは、事前に小学部の説明や授業見学の機会を取ることで、小学部の児童について理解を深めたり、栄養について関心をもってもらうためのゲームや小学部の児童との関わり方を工夫したりして交流に臨んでくれました。

ゲームでは、「じゃがいもが入っています。じゃがいもはビタミンCが多く病気から体を守ってくれます。」等の問題が出題され、料理の絵カードからじゃがいもが材料に含まれるものを取るという楽しいゲームでした。定時制課程の皆さんは、正解すると「そうだね。いいね。」と笑顔で拍手をしてくれたり、不正解でも「これが好きなんだね。でもちょっと惜しい。」と児童の気持ちを受け止めながら教えてくれたりして、思いやりの気持ちで関わりながらゲームを進行してくれました。小学部の児童たちは、好物の食材や料理が出てくると「〇〇だ！」と大喜びでカードを選び、栄養に楽しく触れながら交流できました。

～地域の伝統行事に触れながら交流～

中学部は、桧木内中学校の全校生徒とミニ紙ふうせん作りの交流をしています。事前学習として障害理解授業の中では、「こんなタイプのせんぼく校の生徒がグループにいたらどう関わる？」というテーマで模擬体験しました。「正解はなく、相手の気持ちを理解して気持ちよく交流することが大切です。」と説明されると、桧木内中学校の生徒たちは、褒めたり、分かりやすく指を差して教えたり、おりゃべりに丁寧に付き合ったりなどして、温かい気持ちで関わることでできました。交流会では、桧木内中学校の生徒たちは「じょうずだね」

「好きな言葉はなあに？」などとたくさん話しかけながら、模様を描く場所を相談したり、紙ふうせんを書く願い事を一緒に決めたりして、力を合わせてミニ紙ふうせんを作り上げました。

3学期には、中学部生徒も校内で本物の紙ふうせんを作ります。たくさんの人の願いを乗せた紙ふうせんが、今回も光り輝く冬の夜空に舞い上がることを楽しみにしています。



子どもに伝わるほめ方

能代市教育委員会の特別支援教育統括コーディネーター加賀谷勝先生が、この度、『保護者応援ガイド』子どもは、笑顔の数だけ幸せになれる～温かい言葉を、笑顔で～という冊子を作成しました。その中に書かれてある「ほめ方」について紹介します。



【ほめ方のタイミング】

- ①60秒ルール：行動の変容は、60秒内の対応で決まるので、行動の直後に具体的にほめる。
- ②25%ルール：結果よりも努力している過程に注目して、その行動を繰り返し言葉でほめる。
- ③3回ルール：人は3回ほめられるとその気になるので、複数の人がほめる。
- ④その子に応じたほめ方：優しい表情やハイタッチ、グーサイン等、言葉以外の方法でほめる。

ほめることは、相手を肯定的に見る、あなたに関心があるというメッセージを伝える行為、喜び相手を見てまたほめたくくなります。ほめられると無条件にうれしい、またほめられたい気持ちになる相手に好意を抱くことになります。ほめる・ほめられるは、良好な人間関係を構築することにつながります。

子育てに悩みを抱える保護者のみなさんだけでなく、園や学校職員にとっても分かりやすく、参考になる情報が記載されています。子どもの笑顔を増やすためにも、是非、目を通していただければと思います。

関連ファイルは、能代市ホームページからダウンロードできます。



小学部の手作りカレンダーが完成しました



今年も小学部児童7名が手分けして、お世話になって地域の方々にカレンダーを配りました。たくさんの方に温かい言葉と笑顔で迎えていただき、児童たちは大きな声で挨拶を交わしながら誇らしげにカレンダーを渡していました。デザインは学習活動で触れた物や訪れた場所がテーマになっており、春は花見団子、夏は抱き返り溪谷、秋は角館のお祭り、冬は秋田犬の武家丸です。是非、ご覧ください。



秋田県立大曲支援学校せんぼく校

〒014-0372 仙北市角館町小館77番地2
TEL 0187-42-8568
FAX 0187-42-8569
メールアドレス senboku-s@akita-pref.ed.jp

副校長：阿部 裕子
教育専門監：大川 康博(大曲支援学校)
地域支援部：佐々木 奈織